

「ポピュラーカルチャーのなかのオウム真理教／事件と宗教研究」

講師：川村 邦光（大阪大学大学院文学研究科教授）

コメンテータ：渡邊 太（大阪大学大学院人間科学研究科助教）

日時：2009年2月17日（火） 14:00～17:00

会場：大阪大学 21世紀懐徳堂多目的スタジオ（豊中キャンパス・イ号館）

参加自由・無料です。会場へは、下の地図をご参照ください。

ヨーガ。瞑想。ノストラダムス。スプーン曲げ。ピラミッドパワー。1970～80年代に青年層を中心として多くの人びとを惹きつけていた、ポピュラーカルチャーたる「精神世界」の潮流のなかから、オウム真理教が現れ、やがて多くの人を傷つけた。地下鉄サリン事件から14年、オウムについてはすでにおびただしい言葉が積み重ねられ、もはや語るべきことは残されていないのだろうか。あるいは語りつづけることが必要なのだとして、それはどのようにしてなのか。坂本堤弁護士一家殺害事件など多くの事件に関与した元最高幹部・早川紀代秀被告との共著『私にとってオウムとは何だったのか』（ポプラ社、2005年）を刊行した宗教学者・川村邦光に聞く。

講師の紹介

大阪大学大学院文学研究科教授。福島県生まれ。専攻は近代文化史。著書に、『幻視する近代空間』（青弓社、1990年）、『巫女の民俗学』（青弓社、1991年）、『民俗空間の近代』（情況出版、1996年）、『地獄めぐり』（筑摩書房、2000年）、『聖戦のイコノグラフィ』（2007年）、編著に『戦死者のゆくえ』（青弓社、2003年）ほか多数。

主催：「横断するポピュラーカルチャー」研究プロジェクト（研究代表・富山一郎／大阪大学グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」内のプロジェクトです。）／大阪大学大学院文学研究科国際現代文化研究ハブ

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/crossing-popularculture/>

お問い合わせは、E-mail: crossing-popularculture@let.osaka-u.ac.jp（担当・古川岳志）まで。

